

講師

隅田 由加里

■ 学歴

1. 産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻（修士課程）看護管理学分野 卒業 修士（看護管理学）

■ 学位

1. 修士

■ 研究分野

1. 看護管理
2. 看護教育
- 3.

■ 研究キーワード

1. 看護実践能力，一人前レベル，急性期医療、共分散構造分析、因子分析
2. ジグソー法、協同学習、アクティブラーニング、看護学生、診療関連技術、
- 3.

■ 研究課題

1. 急性期医療を担う「一人前」レベル移行期にある看護師の看護実践能力に関する研究
2. ジグソー学習法を活用した協同学習が診療に伴う看護技術の学習活動に与える効果

■ 担当授業科目

1. 診療関連技術論演習
2. 看護マネジメント論
3. 看護マネジメント総論
4. 看護総合演習（看護管理）
5. 看護総合実習（看護管理）
6. 初年次セミナー I
7. 初年次セミナー II
8. 看護過程論
9. 看護技術論演習
10. ヘルスアセスメント技術演習
11. 生活援助技術論演習
12. 早期看護実習
13. 基礎看護学実習 I
14. 基礎看護学実習 II

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【診療関連技術論演習】</p> <p>「形態機能学」「生活援助技術論演習」の既習の知識を活用できるよう資料を工夫し、予習、講義・演習、振り返り・復習のプロセスとなるように計画した。演習に関してはチーム活動を導入するとともに、ジグソー法による協同学習を取り入れて、アクティブラーニング形式とした。Google classroom内に動画媒体を導入し繰り返し視聴できるようにした。学生の技術における自主練習の際は科目担当者が付き添い、学生とのコミュニケーションを図りながら支援を行った。</p>
2.	<p>授業科目名【看護マネジメント論】</p> <p>看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、実習部門を例にして、2年次の「看護マネジメント総論」での学びを活用しての看護サービス管理と、それをもとにした看護ケア管理を軸に授業を構成した。授業は講義とグループワーク方式を連動させ、質の高い医療・看護とは何か、質の高い医療・看護を全ての患者に提供するためにはどのようなマネジメントが必要であるかを思考する形式とした。また本授業は最後の各論実習期間と合致するため、選択している学生の実習日等を配慮し、履修学生全員が参加できるよう日程の調整を図った。</p>
3.	<p>授業科目名【看護マネジメント総論】</p> <p>経営・経済的なハード的要素と、人間関係構築のようなソフト的要素を含み、理解すべきマネジメント用語も多いため、可能な限りわかりやすい言葉を使用し、日常生活の中に存在する身近なマネジメントともリンクさせながら、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえながら授業を展開し理解向上に努めた。「医療安全」の單元においては、動画等を活用してヒューマンエラーの理解と医療安全対策の必要性を教授した。</p>
4.	<p>授業科目名【看護総合演習（看護管理）】</p> <p>実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「看護部」「病棟」における看護管理実習の目的・目標の立案に向け、実習前は1回／1～2週にゼミを開催し、8月上旬までに上記の部門における実習目的・目標・実習スケジュール・評価指標を構築できるように調整を図った。実習終了後は実習での学びを活用し、各自のテーマに即した卒業論文記載の支援を行い、論文集の冊子を作成した。</p>
5.	<p>授業科目名【看護総合実習（看護管理）】</p> <p>7日間の実習の中で、実習部門は「医療安全管理部」「感染制御部」「看護部」「病棟」の5部門であるため、学生が円滑に実習を行うことができるように施設側と複数回に渡って調整を図った。実習前に実習指導者への説明会を調整し、学生がプレゼンテーションを行える機会を調整した。これによって、学生は看護管理実習のイメージ化を図ることができた。また実習期間中は、部門が変わるごとに教員も付き添い、実習導入が円滑となるよう支援した。</p>
6.	<p>授業科目名【初年次セミナーⅠ】</p> <p>1年次前期の科目であるため、学生とのコミュニケーションが図れるよう、教員から積極的に声かけを行い人間関係の構築に努めた。学生のレポートのフィードバックは、まずは全体の総括を行った後、個別でも実施した。グループ間の人間関係が構築できるように、学生間の調整を必要時図った。</p>
7.	<p>授業科目名【初年次セミナーⅡ】</p> <p>グループで1つの小論文を完成させるという大目標があったため、学生が日々の授業以外の時間でも初年次セミナーⅡの話し合い等の調整を行いやすいように、基礎看護学の授業と同じグループ</p>

	とし、他領域との調整を図った。授業時は 3 つのグループの支援が均等に行えるように時間調整を図るとともに、時間外の相談にも対応した。
8	<p>授業科目名【看護過程論】</p> <p>看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法をわかりやすく具体例を活用し指導するとともに、学生が興味を持てるよう肯定的な言語を活用し承認を意識したコミュニケーションを図った。個別フィードバックにおいては、改善点をわかりやすく記載し配布し修正が行いやすいように配慮した。授業終了後は、担当教員間で Meeting を開き教員間の情報交換と情報共有を行った。</p>
9	<p>授業科目名【看護技術論演習】</p> <p>科目責任者と事前調整を図り、「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「安全を守る技術（ボディメカニクスとポジショニング）」「環境調整技術（ベッドメイキングとシーツ交換）」の演習では、履修学年である 1 年生が理解できるよう、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントを思考できるよう心がけた。</p>
10	<p>授業科目名【ヘルスアセスメント技術演習】</p> <p>科目責任者と事前調整を図り、バイタルサインの「体温測定」「脈拍測定」「呼吸測定」「血圧測定」をはじめ、演習の際は担当学生に対して、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。実技試験の評価時は、公平性を担保できるよう時間を調整し、評価ポイントに準じて実施した。</p>
11	<p>授業科目名【生活援助技術論演習】</p> <p>科目責任者とは、限られた時間の中で教授すべき技術ポイントの事前調整を図り演習に臨んだ。演習では「活動と休息（車椅子操作）」「清潔（足浴、洗髪台での洗髪）」「排泄（オムツ交換と陰部洗浄）」に参加し、可能な限りわかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。統合演習における実技試験の評価時は、公平性を担保できるよう時間を調整し、評価ポイントに準じて実施した。</p>
12	<p>授業科目名【早期看護実習】</p> <p>入学して 2 ヶ月の学生の病院・施設実習となるため、まずは学生と患者の安全が担保されるように教員間で時間をかけて調整するとともに、学生が注意点を理解できるようにわかりやすい説明を行った。身だしなみの重要性と必要性をなんども説明した。学生が自由な発生で気づきを得ることができるよう導き、また臨地実習指導者にも学生が理解し気づきを得ることができるよう、わかりやすい言葉で細やかな説明を加えてもらえるよう調整を図った。感染兆候の有無に留意し、日々の健康管理を各学生が行えるシステムを構築した。</p>
13	<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>学生が感染防止対策の重要性が理解できるよう健康管理を各学生が行えるシステムを構築した。実習目標達成に向けて早い段階から日程やスケジュール等を基礎看護学教員間で調整し、実習に臨み、実習期間中は臨地実習指導者と調整を図り学生が目標達成できるよう支援を行った。</p>
14	<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>学生は 1 年次の基礎看護学実習Ⅰは学内実習で初めての臨地実習であったため、円滑に実習が導入されるよう臨地実習指導者と調整をはかった。また学生が能動的に積極的に実習を勧め、日々の実習の中で自身の成長を実感するとともに、失敗経験を振りかえり次に活かせるように調整を図った。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2017年4月～現在に至る	日本看護技術学会	
2.	2017年4月～現在に至る	日本看護学教育学会	
3.	2017年4月～現在に至る	日本看護管理学会	
4.	2017年4月～現在に至る	日本看護科学学会	
5.	2022年8月～現在に至る	医療の質・安全学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2）個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額	備考

			(単位：円)	
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2017年4月～現在に至る	西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 フォーストレベル 質管理Ⅰ： 看護サービス管理の安全管理授業担当	教育運営委員
2.	2023年8月26日・27日	第33回日本看護学教育学会	運営役割
3.	2023年12月10日	第43回日本看護科学学会	運営役割

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022年4月1日～2024年3月31日	宗教委員会	委員
2.	2022年4月1日～現在に至る	学力向上プロジェクト委員会 (低学年担当)	委員
3.	2023年4月1日～2024年3月31日	学力向上プロジェクト委員会 (国家試験対策担当)	委員
4.	2017年4月1日～現在に至る	認定看護管理者教育課程教育運営委員会	委員